

5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18

11
7
280

人倫訓義彙

二

始



御覽云初に芥子目

寄人 和方の此國の風俗

とて神体よりをわたり

候名の二十一字とててぬ

和方の感念めと河なり

固よみえの思とてくさぬ

らつりやうにさつらめ

和方の神人おろよわら

和方の目とて和國と

もあつりわらよと義と

風流は奥雅とてし又

和方短方旋次混中折

寄人



句歌冠非俗ふり後あり
 神律秋夜色を常
 天地山川草木を数ふ
 のうんよつらうまへもさうら
 と懐くしてつらねとし
 りかすまうかたはな
 て懐と述るるまう
 有職志
 中物みねめて後道の製
 法わりのけはとあらうちさう
 人と有職の人との第一上
 左子の法式より下百本の
 ありつてさぬくのみあり



有職志

家と乃傳説をたて号
 一代乃制と証據と
 稱して和國のさまじし
 一あつて詩人傳のな
 もりねとねのけいよま
 予ももりのくわあよ同
 しくを義ありて介と八
 白に形し字のなま七まに
 なるぬん法式の約字大
 成おのせよまうし
 歌字の歌歌二重歌本
 られる法のよ長枝あり



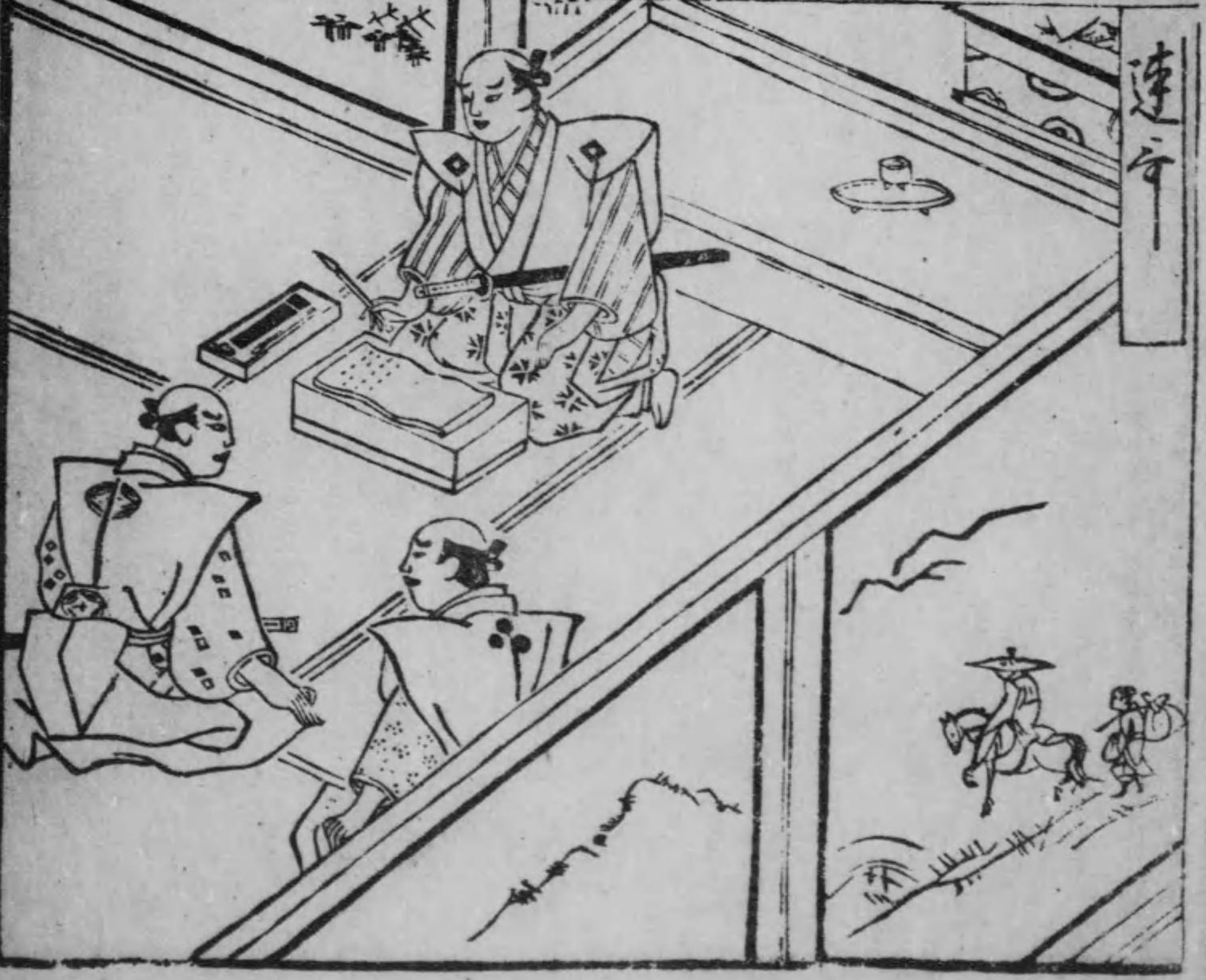
詩人

車師師

さかひじり

あつてるくまきまきなり
 本武蔵のいひものつこと
 とくそりくまらぬつら
 あらせけつと燭とく人
 せむしあつてつらき
 家の娘とくや実家
 隆赤のくわらもくあり
 とも巨款の法式とてい
 ふひつまる事宗法
 師牡丹花よりゆかり
 中は赤あめの子ゆかり
 け道整めでせきあめ
 式定まりとれりし

代ははしりし
 眉承合な
 孫承合の
 と
 相方の一神
 毛御落
 今のく
 て感
 を
 せむし
 ひ
 け
 か



大坂の住むところの御家同士の
 思ひあひあつては、まことの
 侍とらひひらひと、まことの
 とらひひらひと、まことの
 子ほくくして、又も風が
 上は、まことのまことの
 りのふ外にあり、まことの
 れた子と、まことの
 と、まことのまことの
 て、まことのまことの
 まことのまことの
 れた子と、まことの

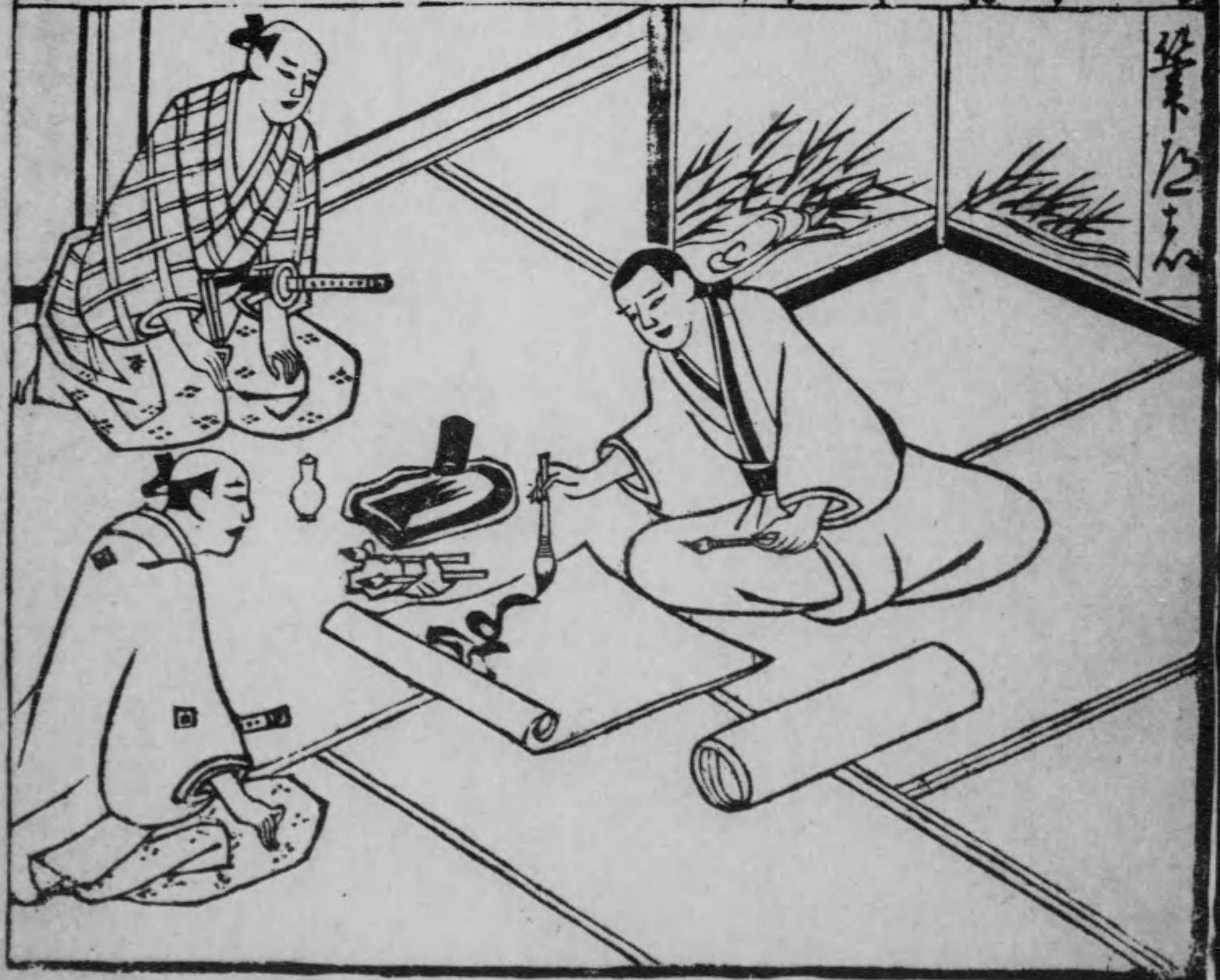


て、まことのまことの
 りのふ外にあり、まことの
 れた子と、まことの
 と、まことのまことの
 て、まことのまことの
 まことのまことの
 れた子と、まことの
 と、まことのまことの
 て、まことのまことの
 まことのまことの
 れた子と、まことの



下ル丁竹之屋に在りて室町毎に
 系下ル丁竹居丸を所為丸
 多野常之ニ系を属出流
 極虎や廣居大坂の修石
 江戸系徳島計丁あかめや
 六尾馬石町十石棚松平為
 同下竹居助と系漢平如所
神道系 日本神國系
 心林代とて開かて流
 流ありの中飲明元皇
 孔出代及伝はくしてよ
 つも林代おくりて傳學
 ともられるり林書教百

ありとりんも入麻が運
 心の比渡下しつうやも後
 系代系皇れ皇子一系合
 人款王日較記と製作
 ありけ中林代の二本中
 船の形記より今唯一林代
 と号けりを概えの林代
 中りのあ款おも合といおけハ
 仙舟とりのつく林のあ流
 くまろえ **学者** 世作学
 志と林とつうハ傷とといふ
 なり孔子乃授とあり仁
 義孔智位の又出あり



又備のなごきし人の傷を
 けしんすこの経老症
 の道とて人のなごき
 ひて軟く委ゆる母の
 母の名師の醫の醫家
 言ふ方字をそれの師
 あり
傷 傷の意林
 帝の侍阿直俊王仁
 傳後孝純と持来して
 巨海國のつと後うとい
 目下めて傷のうといと
 うや **筆道者** 康去乃
 蒼頡のなごきとみく字



とつりしとて代々
 あり字を並に書かれ
 やとりつとて代々
 といのり代ちよわくハ晋
 王義子とてめ歴代の名
 人わりの日本にわめてハ弘法
 とてハ先代理の月持
 勢ののらるやあてま
 子を代十二点とらる
 あり
醫師 醫の林
 あり
 く勿然くして事あるの
 あり八百餘とらるハ脈



六腑は通じらる事と云へり
 て、兼て通じらる事と云へり
 師なり日本に於ては針代
 此時少なきは命方病成
 療治とらる針灸の成
 と云へり、あつてはゆへ
 日本にては少なきは命と云
 祖師は西酒地又命の針
 乞へけ針の業方ありく
 日本と云へり、あつてはゆへ
 教と云へり、あつてはゆへ
 乞へけ針灸と云へり、日本
 と云へり、あつてはゆへ

齒醫師



針師 十四經
 と考て浮沈補泻の辨あり
 打針拵針灸針灸師
 の流あり、あつてはゆへ
 針灸を云へり、日本
 脈の人身先一のあり
 乞へけ針灸の業方あり
 りて、あつてはゆへ
 日本にては少なきは命と云
 祖師は西酒地又命の針
 乞へけ針の業方ありく
 日本と云へり、あつてはゆへ
 教と云へり、あつてはゆへ
 乞へけ針灸と云へり、日本
 と云へり、あつてはゆへ

金瘡



針師 十四經
 と考て浮沈補泻の辨あり
 打針拵針灸針灸師
 の流あり、あつてはゆへ
 針灸を云へり、日本
 脈の人身先一のあり
 乞へけ針灸の業方あり
 りて、あつてはゆへ
 日本にては少なきは命と云
 祖師は西酒地又命の針
 乞へけ針の業方ありく
 日本と云へり、あつてはゆへ
 教と云へり、あつてはゆへ
 乞へけ針灸と云へり、日本
 と云へり、あつてはゆへ

家のあり得あり 徳醫の
中にむいりまき方と
まじりかかるとこれ陰陽と
よからまき赤黒の
つとがんぐと利の口は
あつことあり **菌醫師**
本物とてあつて湯の物
は菌医れ殺気毒と毒を
生とてあつたれあり金
原とありて毒醫の家と
はけあは居後白あは
つらりあり **水神**
外科相み出り物と療



とらゆへ下り外科と
外科回春を土の釋書之
金 子有るを一切の
るは診察の法ありけん
大乳よして物は物と
りとのつと小乳あり
徳礼志のありは徳礼志
まきぬれとて金毒の下
あり **徳礼志** 小徳礼志
れは徳礼志武家の礼式と
て唐人よつとりの徳礼志
りそとて徳礼志と徳礼志
といひまき法と徳礼志



ついで武のあはなり

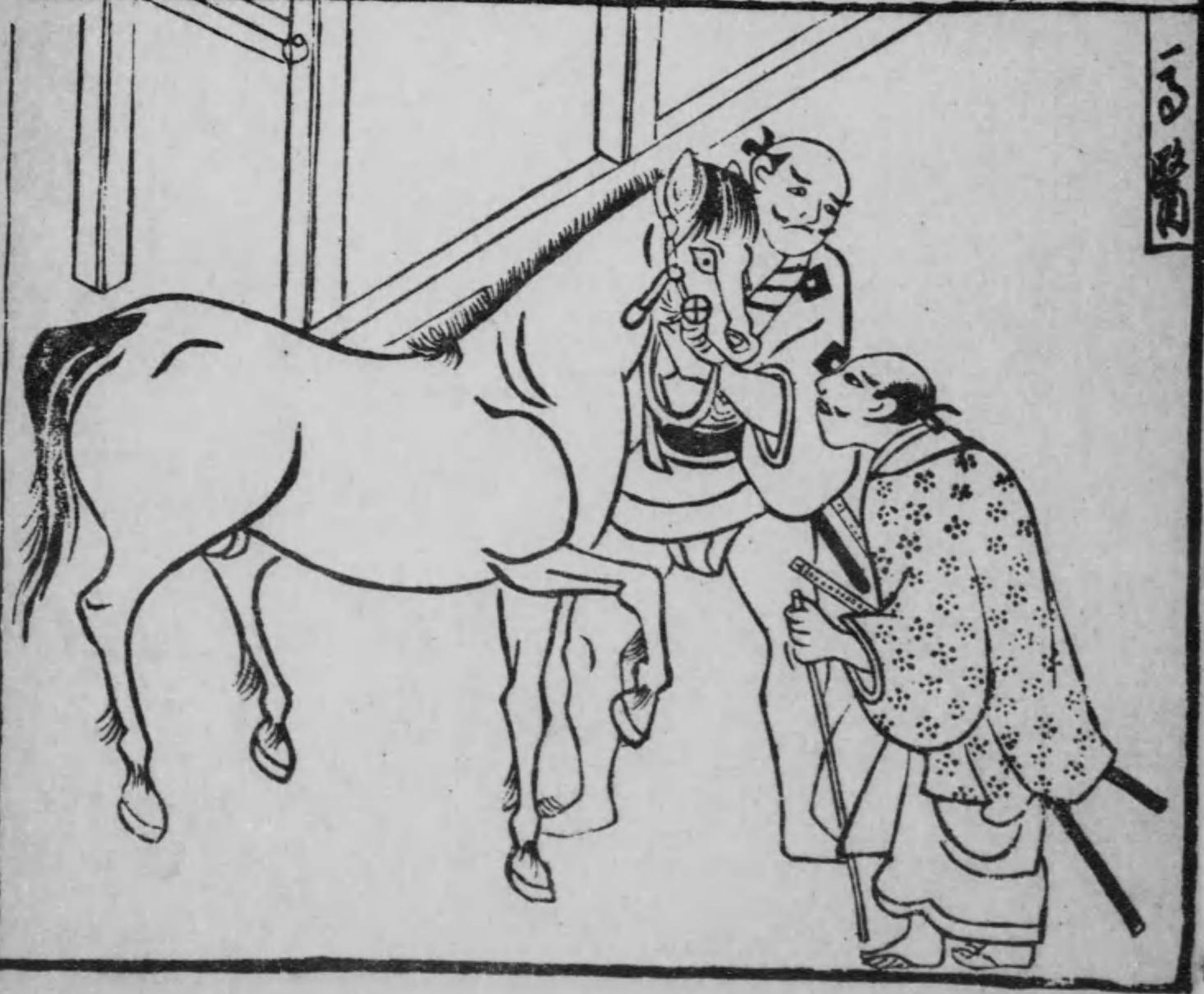
鐵ははらへんといふ
らひ鬼鉄と鉄と持物か
一田王を許しとてりさ
れど武用の身一鉄とて
と軍中ふねめて歌と
くま鉄下地もあつて
柳の影に九鉄みよく
寸鉄十文字鉄徳管徳小
流くの徳徳香の徳徳
徳鉄は徳徳徳の徳徳
徳かひびくも武士の女
を徳とついで鉄徳に

鉄炮

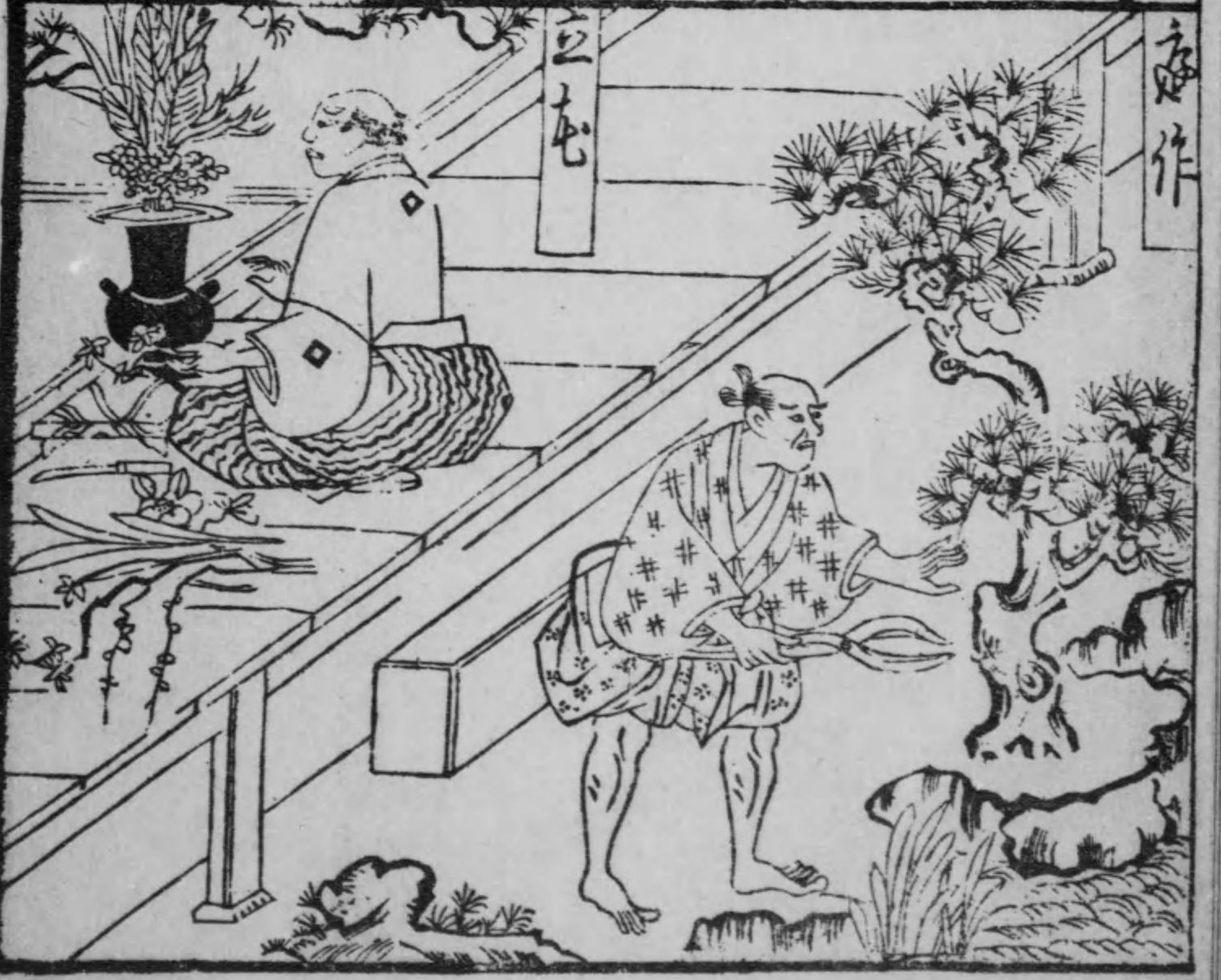


二る

けま鉄のせり鉄一徳と
徳わきと徳力其の中よ
る徳と
徳と男子徳一の徳
して徳徳で徳徳と
徳徳徳あり徳徳徳
徳鉄鉄徳徳徳徳
徳ありひひ一回徳徳
徳徳徳あり徳徳徳
徳徳徳あり徳徳徳
徳徳徳あり徳徳徳
徳徳徳あり徳徳徳
徳徳徳あり徳徳徳
徳徳徳あり徳徳徳
徳徳徳あり徳徳徳



うへはねりくちや回本に
 わての文孫のはせうも
 くは布せり編箇一まは
 とらふえけたのふ道し
 ていさなをすーこ後ろ
 小箇ホあくのけまれと
 てはまた飲くらぐれ
 笑ふより **馬醫** ころ
 白ふといふはさの白ふ
 つらさうあやりの夜
 あめて孫陽のふ人
 病とこりの針灸業の
 とうし黄帝のしり



て病との痛とる
 つらさうあやりの夜
 あめて孫陽のふ人
 病とこりの針灸業の
 とうし黄帝のしり
 軍法は七書
 令一團幕のうら
 めぐう勢の強弱と
 地を温め運め
 時節の敷と
 生い
 水討
 の軍
 了くめ
 の勇



新編 江戸

あまのりるれまはてふあ
 つまねぬきあしきりてより
 教寺屋園あのかきとふ
 つらひはあ入るああ極
 ちう神理梅ああ
 りりりあこまやふりり
 けり利体とりや中興
 と台田織ア小堀き江
 海あわり乗和ああ
 りりりあああああああ
 ああああああああああ



新編 江戸

あまのりるれまはてふあ
 つまねぬきあしきりてより
 教寺屋園あのかきとふ
 つらひはあ入るああ極
 ちう神理梅ああ
 りりりあこまやふりり
 けり利体とりや中興
 と台田織ア小堀き江
 海あわり乗和ああ
 りりりあああああああ
 ああああああああああ



じけあま... 池坊と宗匠... 毎子七月七日二里... 代にお積りて一家... 毎子七月七日二里... 池坊と宗匠... 毎子七月七日二里... 代にお積りて一家...



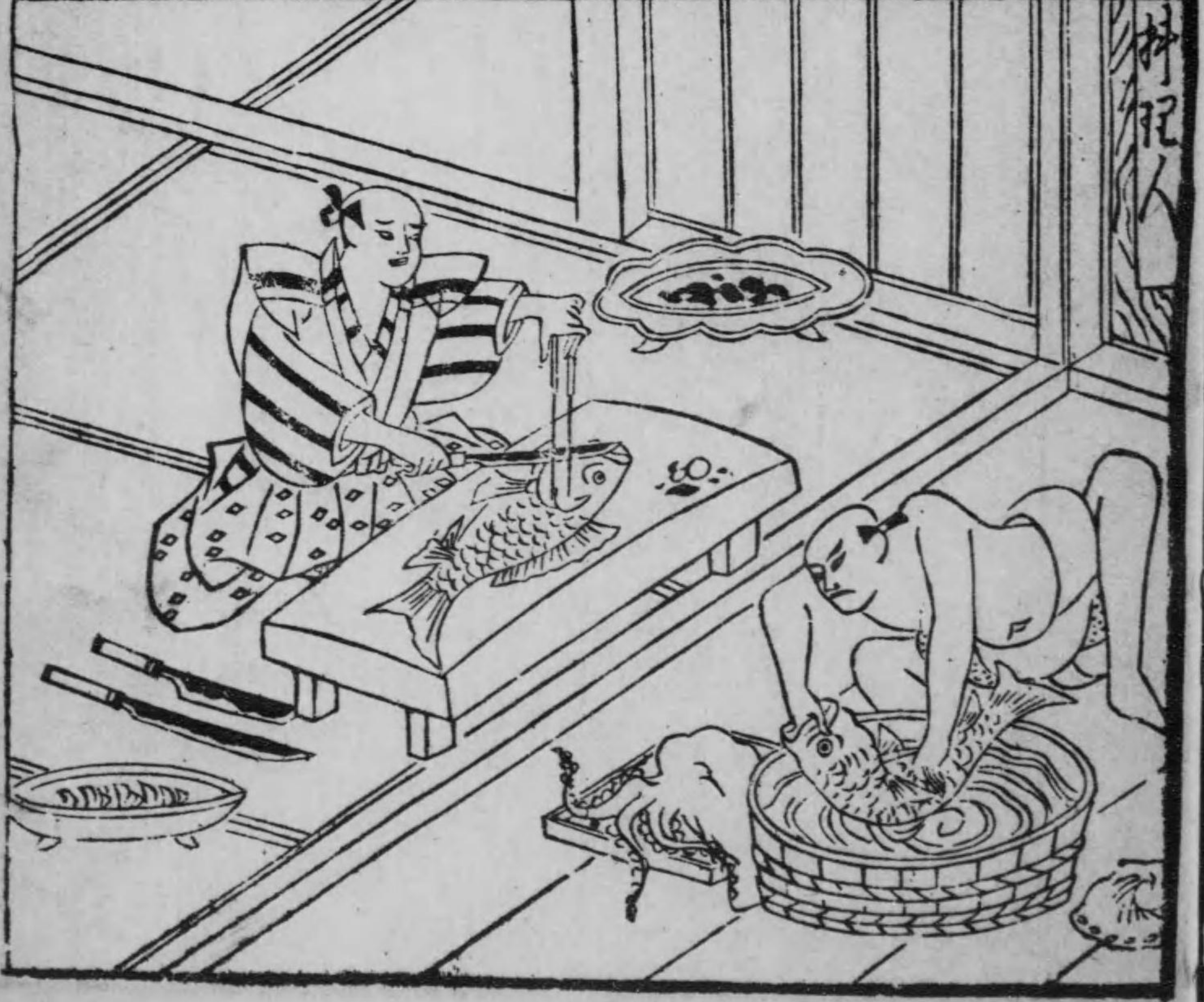
持来り... 池坊と宗匠... 毎子七月七日二里... 代にお積りて一家... 毎子七月七日二里... 池坊と宗匠... 毎子七月七日二里... 代にお積りて一家...



系所也三系下ル二丁目よる
 江戸盤作亦南條に所す
 町新あり所 **お茶** 固ま
 帝詔あつて長下王慶よ
 ららむ心そ軍はの儀
 ををみ飾布ひらと小茶
 とりふそお中お茶お茶
 のはあり基よ同く存
 りの指まき世お茶の釋
 の廣中勢も外儀や
 ナまへもあまのり盤と
 らら其基盤一家あり
双五六 百育王の化又ハ



五月朔の子建徳とも同
 軒ハ天陸年中に海
 盤ハ田舎を新し
 八分に新してひらと八分
 十二月よあゆく長と一尺
 二十午二の月よりの五地
 人の二とよかこりり
 三度よけ法陽は
 うらんで内おれ二庫を
 一册と司どりく思は北の
 あり日月を教しく二つれ
 さのあり須はの二十三天
 よ教しく竹の折と二守こ



分に切らうくに唐女のりてあういものり候成りかまもあじ
れたんくとも目とこの好あり **香嗅** 香の濃なるの好味を

感無きしく人として優美ありしは清浄潔白の徳あり候

室赤梅相蘭本流り下め日本みくめくあそひり **紫舟** 紫舟

若神物長に名水は徳のなるありやく **嗅智** 人と香嗅と

写し **同利** 万代益雲莊益園よよいともあくの同利

是室室の人ありたよららび人の学つては同利なり

あ世の同利銀ハ本は孫光叔曰光碩植糸自仙本は孫光

まこそわりの名筆ハ孫光叔曰孫光碩植糸自仙本は孫光

本は孫光叔曰孫光碩植糸自仙本は孫光

たら和川東海寺云沃法ハ孫光叔曰孫光碩植糸自仙本は孫光

多と兼福田植たつて野長たら大和を十たら孫道真江を兼植

南二丁同片念道悦意房町是本をたら **兼不** 不人

夜出らうらうはわりの樂洞妙なるり **伝律** 感可ち人

備と和んともぬ志ひるの法ありなりとて一切の事

急とらる候人と人ともなりとて一切の事 **兼不** 唐去の

白たふしの家残らうららりたまるぬあり **兼不** 唐去の

梅玉の作也日本にいての香徳を子よりつらう不兼れ也一

とて日本よあわくともありてあまびとぬくりふの個

子ありとを善とらふ富世傳造松糸ぬ富少流兼入丁と

中兼たら **琴** 現るは伝義の作らふあり二十五 **結** わりて

現るは伝義の作らふあり二十五 **結** わりて

又忠たよりつらあたらふ下園とあつてくつて

ちあんとて可れ律造らぬありて律造とてしあふ

てらふ張とあうてては結とらうとてあつてあふこれあ

のにじちなりとて和契のふ兼の中はくへあふよあ

伊人妙一乃能思意とるなりを説く今とりの又七三の
つと毎よりのわきぶ十三の取れ個ありを説く
取らるる小松小松とぬくのせとくよりよやく取らるる
と細くよたりのあまの味縮あまひいて細くいらるる
習習の依義の妹女婿子の依よて魔玉に股を
着して依より依よよかおて妙喜界と細くは因中
うらうらふお祥二年三月は掃地氏自教入夜しておま
りの中世祇師生佛とらふ旨同は源平乃お徳と化
ておぬらうりの生佛とるよふは説くして習習とかか
しからそまへんびそと習習は師とらり

歳前集

慈とりの傍く智徳を子れるるいあひくありけ傍を
た子仏学はは師道のとめた度の子のりりてとく

留

美おの念ごとの人松竹林とぬくとも風凰と
まてまてとてはつらうと有り

よひひびりしよりまていんをともて伝記たりるるとも
一休小松院の正字庵花院相圓らの代は釈世世の
縁とりのまてかおの縁とるとかきりてはてあ
とび一家とてて親母依あり今よらうとてか一と親
母よりのまて保生りて色今まより金剛をりて
と美とりの傍くとりの小松小松とぬくの縁とりの
ありとらや

地徳

徳は因をれ徳具の随一有り他も
多の河川て神神 釈教無常常度日本れ古来
たふちの徳とてて工か工高のとりとて出ま鬼神
のとりとらまてつとまていらりあく徳と和和徳と
ひてつと徳とらふ徳の徳とてとて神事説

言の場いばは宴うたげの存ぞん愛あいよあてとらね成なりりてあともいじと
 りあがりや一圓いちげん家か奉ほう本ほんれ個こ子し持もちとさり老おいとあやぐ
 れ功こう能のう多たて物ものあふらるるさ指さしさり **笛**ふえ横よこ箏そうと号ごうは
 度ど入いる東あづま波なみ若わか士し池いけ中ちゆうの跡あと吟ぎんとまてけの竹たけとさり
 く八はち穴あなとわけく吹ふくともや穴あなとまほりよあは和わ國こく
 介けの名なあり又また個こ子しよあわく一いつ穴あなづくに若わかああり竹たけの
 漢かん作さくてととに多たる簾れん箏そうとまてまあえと飾かざしてじく
 よりりてむとぶところあり **世**よ傳でん使しの森もり田でん名な兼かね云い
 日ひ名なち一いつ唱なうりたら名な田でん与よ兼かねと兼かね外ほか名な兼かね
鼓こ鼓こよ大だい小せう
 二ふた面めんの皮かわの天てん地ちとかごとり花はな形がたの墨すみを素す一いつ個こ練れんの又また
 氷ひよう大だい常じょうとかごとり筒つつの形がたと素すの又また大だい鼓この陽やうあは
 呂りよ小せう鼓この陰いんありて律りつとられ陰いん陽やう和わ合がふの堂どうなりあ

時とき小せう鼓こ亦またの親おん世せ宗そうと兼かね保ほ生せい形がた大だい慈じ長ちやう若わか若わか母ぼの
 あく大だい鼓この若わか母ぼも兼かね保ほ生せい形がた二ふた条じょう玉ぎよく金ぎん所じよ為な丸まるの南なん下げ下げ丁てい
 大だい坂さかの傍わらわ筋すぢうらう丁てい **太**たい鼓こ太たい鼓このうらうは鼓この
 法はふ時ときの太たい鼓こをうらうりらと海うみ邊へりもさゆりあみ
 ぐり抱かかの陰いん陽やう城じやう表ひょうは **狂**きやう言げん人にんと兼かね保ほ生せい形がた今いま又または
 良らう若わか鼓この鼓こ母ぼあり **狂**きやう言げん人にんと兼かね保ほ生せい形がた今いま又または
 是こゝで法はふ介け保ほ優ゆうの事ことなり **舞**まいびう保ほ平へいの軍ぐん人にん
 舞まいの如ごとと保ほてさつとほらるる毛けと兼かね保ほ生せい形がた今いま又または
 毛け舞まいとりの又また保ほ生せい形がた今いま又または
 にあはれあり鼓この若わか母ぼも兼かね保ほ生せい形がた今いま又または
 ありて大だい冠かんと戴たい水すい下げに大だい口くちと送おくり拍はく子しとるはた名なの男おとこ
 あく大だい鼓こも兼かね保ほ生せい形がた今いま又または
 八はち乃の女によ舞まい兼かね保ほ生せい形がた今いま又または
 八はち乃の女によ舞まい兼かね保ほ生せい形がた今いま又または
 八はち乃の女によ舞まい兼かね保ほ生せい形がた今いま又または

11
7
280

沙ああ 光孝天皇の
沙あ子あはれのあよこ
まるといふせいのありこ
もあつてくのおくこ
とあ入又いけなまの娘
子よ琴三尾像をかへ
ゆれいみのちまわちあり
たこののなり



終

